

八峰町の地名の由来

前回に引き続き、地形や土地の利用とのかかわりを考えながら地名の由来を紹介していきます。

●目名瀧

目名瀧は母谷山の麓の地名で、ほかに目長田という地名もあります。八峰町役場庁舎の住所も「目名瀧字目長田」となっています。

「メナ」は「目名」「女那」と表記され、北海道南部や東北

北部に多い地名です。由来は諸説ありますが、川の支流、細い流れだとする説、川の流れを横切る場所という説などがあるそうです。いずれにしても川に係する地名で、八峰町の場合、小釜沢川という細い川が目名瀧



小釜沢川が目名瀧と目長田の間を流れる様子。

と目長田に挟まれるように流れています。

また、「ガタ」は遠浅の海岸や干潟のほかに、「傾(かたむく)」から、傾斜地を表すこともあるそうです。目名瀧は南東―北西に傾斜しており、広域農道を北上していくと役場庁舎のあたりから日本海の美しい景色を眺めることが出来ます。

●ホンコ谷地

八峰町の観光拠点となっているポンポコ山の住所は「沼田字ホンコ谷地」となっています。沼田の「ヌマ」には沼地、湿地の意味があります。また、ホンコ谷地は、昔は盆子谷地(ポンゴヤチ)と呼ばれました。「ポン」はお盆のような地形を意味する場合があります。

また、「ヤチ」は、東北では低湿地につけられることが多いようです。「目名瀧桑木谷地」「水沢家ノ下谷地」など峰浜ではこの「ヤチ」とつく地名が残っています。

ホンコ谷地は、昔からタヌキがよく生息しており、ポンポコ山と呼ぶようになりました。現在はポンポコ山公園やバッテリーカー広場、バンガロー村などが整備されています。

ジオパーク全国大会

10月6日〜7日に日本ジオパーク全国大会(アポイ岳)が行われました。全国大会は今回で9回目となり、ジオパーク関係者や地元住民など約700人が集まりました。開催地となったアポイ岳ジオパークは北海道様似町に位置し、地球深部の情報を持つ珍しい岩石「かんらん岩」やアポイ岳固有の高山植物を特徴としています。

大会では、講演会やポスターセッション、分科会などが行われました。ユニバーサルデザインの分科会では、年齢や性別、能力、国籍を問わず気持ちよく過ごせるジオパークについて考えました。



二人一組になって車いすの揺れを少なくする工夫。

また、ポスターセッションでは「まちあるきとジオツアー」と題して当協議会の観光への取り組みを紹介しました。



セッションでは、今年6月に実施した、発盛鉱業所を巡るまちあるきツアーの紹介を行いました。このポスターは八峰町地域おこし協力隊の山内さん作成していたものです。ポスターは大会期間中に掲示された課題や課題解決の方法について参加者と共有しました。

八峰白神ジオパーク推進協議会

地域おこし協力隊 三輪拓磨

〒018-2632

秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四四―

ぶなっこだ内

TEL 0185-7713086